

公園をみる・観る

=春はライオンの如くやってくる=

イギリスの気象関係者の間では「春はライオンの如く来て、ヒツジの如く去って行く」という言葉がある。イギリス人ではない私にはそれがどんな様子を表現するのか定かでないが、ある日として突如として否定し春が目前に広がる状態なのだろうと私流に解釈して今年はそのイギリス人のいうところの「ライオンの如く



くやっ
そうだ。
してい
がたい
いる。
くやっ

て来た春」を見た気がした。ヨシ焼きの終わった3月半ば、ヨシがすっかり焼き払われて、中央園路から視界を遮ぎられることなく公園最北端の観察展望棟まで見渡せるようになった。ヨシ焼きあとの空き地には、近くの調整池から水が引かれ水鳥たちが遊んでいる。冬枯れのヨシに遮られていた視界が開け穏やかな陽光に包まれたその光景は、まさに突如としてライオンの如くやって来た春の風景だった。穏やかな風景に見とれる若いカップルの後ろ姿も、また春の訪れを喜び一幅の絵であった。久しぶりに公園を歩いてみた。「今年のウグイスは早くから上手に鳴けるねえ」「おや、ニホンアカガエルのオタマジャクシがしっぽをふりふりビオトープ中をはしゃぎまわっているね」「イヌコリヤナギの冬芽も開花したよ」あちこちに点在する春を一つひとつ拾い集めて歩く。いつもこの時期観に行く、トンボ池の5本のシダレヤナギも芽吹きを始めている。枝垂れた枝の一本いっぽんが、いくつのも新芽をつけて静かに風に吹かれている様子は薄衣を着た女性を思わせ初々しくも美しい。

歌人で小説家の長塚節は小説「土」の中で「春は空からそうして土から微かに動く」と言っているが、うまい表現だと思う。空気はまだ冷たいが空の色は輝きを含み、足元にはあちこちに春の小花が顔をのぞかせている。やはり日本の春の訪れは三寒四温なのだ。

は～るよこい♪ は～やくこい♪……みいちゃんの気分だ。

(土×土)

Kさんの、あんなとりこんなとり

近所を歩いていたら、河口近くに生えている木の枝に、茶色い大きな不思議なものがたくさんくっついているのが目に入りました。紙袋？木の実？よく見るとトビでした。そんなにたくさんのトビを間近に見たのは初めてで、びっくりしている間に一斉に飛び立ち、川にかかった電線に留まりました。数えてみると全部で9羽いました。

順番が決められているのか、混乱もなく1羽ずつ海に向かって飛んでいきます。トビの飛行訓練の場に立ち会ったようです。最後の1羽は教官だったのでしょうか。全員が飛び立ったのを見届けると、悠然と後を追っていきました。



riggs